

学びの特色【基礎編】 教育課程／人間学

自ら出合い、自ら学ぶ。 「人が育つ大学」と呼ばれる理由があります。

夢をもって自主的に学び、互いに力をあわせ、競いあい、高めあっていく、これが滋賀県立大学の学風です。

この風土を培っている大きな特色が教育課程にあります。幅広い知識、教養を身につける全学共通科目と1年次から学べる専門科目、そして全学部生が履修できる副専攻科目で構成されています。



※副専攻は、地域基礎科目（全学共通科目）、地域志向専門科目（専門科目）と合わせて本学独自の地域教育プログラムを構成します。

学ぶ力を身につける、少人数教育。

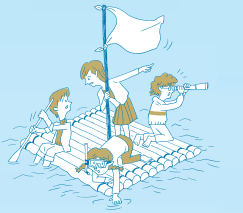


特色のひとつである「人間学」は、自分自身や人間と社会を深く見詰め、人間性ゆたかな生き方を探る力の習得を目的とした科目群です。問題や課題を自ら見つけ、解決するためのなにかを創造していくには、思考を他者に伝え、他者の考えを理解する能力が欠かせません。自己表現や多様性に対応できるコミュニケーション、発信力や共感性、批判し合える関係づくりを身につけるために、1年次前期は「人間探求学」を必修科目とし、学科ごとに5、6名のグループに分けて対話型の少人数教育を実施。学びの基礎となる能力の養成から始めます。

全学共通科目

幅広い視野を身につける

全ての学生に必要とされる幅広い視野を養うとともに、豊かな人間性や国際的なコミュニケーション能力の向上をはかり、自主的な勉学意欲を引き出すことを目的としています。



■人間学

「人間探求学」を1年次前期の必修科目に指定しています。それ以外は選択必修科目となっていて、「生きる」「つくる」「考える」という3つに分類されています。人間と社会を深く見詰め、人間性ゆたかな生き方を探る人間学は4年間いつでも受講可能です。



■全学共通基礎科目

外国語教育（英語と第二外国語）、社会で必須となる情報処理教育、健康に対する知識と体力を養う健康・体力科学教育の3つの分野で構成しています。

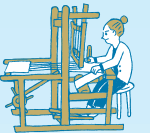
■地域基礎科目

1年次前期の必修科目の「地域共生論」と選択必修科目の「地域コミュニケーション論」などにおいて、地域教育プログラムにおける基礎的な能力を養います。

専門科目

1年次から学べる専門教育

本学では、一般教育科目を終えてから専門科目に進むという考え方を改め、各学部の目的に沿った個性的な教育を実現するために1年次から専門科目の講義を受講できるようにしました。



副専攻科目

地域に学び貢献する独自のカリキュラム

近江楽士（地域学）：地域で学び、活動する基礎となるのは、自ら関係を創り出し、フィールドで考える能力です。本副専攻では「コミュニケーション力」「行動力」「問題解決力」の3つの要素からなる「ネットワーク力・起業力」の習得を主眼としています。

近江環人 地域再生学座（大学院・社会人）：近江楽士（地域学）副専攻の上位カリキュラム。県立大学大学院生だけでなく、行政、企業、NPOなどそれぞれの立場で地域再生のリーダーとなる資質を有した人材として「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」を育成し、地域のニーズに応えることを目的としています。



学びの特色【展開編】 専門科目(フィールドワーク/実習)

学びを経験という価値に変える。

環境科学部 「環境フィールドワーク」

実際の地域環境問題が起きているフィールドに足を運び、調査・解析とプレゼンテーションに必要な能力を身につけます。

School of Environmental Science



「フィールドワーク・実習」の一例

環境フィールドワーク
環境学野外実習
環境生態学特別実習
集水域環境学・同実験
水域環境学・同実験

社会調査実習
環境マネジメント演習
アジア・フィールド実習
環境政策デザイン論・演習

地域産学連携実習
木匠塾
生物資源管理学実験・実習
環境生物学実験



工学部 「実験・実習」

技術者としての基本的技能を体験的に学びます。例えば、身近な工業製品の分解と再組立を通じて、ものづくりの基本を学びます。

School of Engineering



「実験実習科目」の一例

材料科学実験
定量・機器分析および同実験
物理学実験
分析・環境化学実験
卒業研究

機械システム工学セミナー
機械製作実習
機械工学基礎実験
機械システム創造実験

電子システム工学セミナー
電子システム工学実験
電気電子設計製図



人間文化学部 「環境琵琶湖文化論実習」

1年次を対象に、滋賀の歴史、文化、生活を学ぶ実習で、テーマ別に班編成をし、調査から報告書の作成手法まで学びます。

School of Human Cultures



「フィールドワーク・実習」の一例

環境琵琶湖文化論実習
考古学実習
地域計画実習
地域社会調査実習
地理学実習

人間工学実習
生活デザイン学外演習
栄養教育論実習
給食衛生管理実習
臨床栄養臨地実習

教育観察実習
心理・発達・行動学実験演習
基礎演習
発展演習
研究演習



人間看護学部 「臨地実習(全14科目)」

医療・保健・福祉の現場での実習を通して看護援助の基礎的な実践能力を身につけ、かつ人との出会いやふれあいを通して豊かな人間性を育みます。

School of Human Nursing



「臨地実習(全14科目)」

地域生活実習
基礎看護学実習(I・II)
成人クロニックケア実習
成人クリティカルケア実習
エンドオブライフケア実習

老年看護学実習(I・II)
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習
在宅看護学実習

人間看護学統合実習
公衆衛生看護学実習(保健師課程)

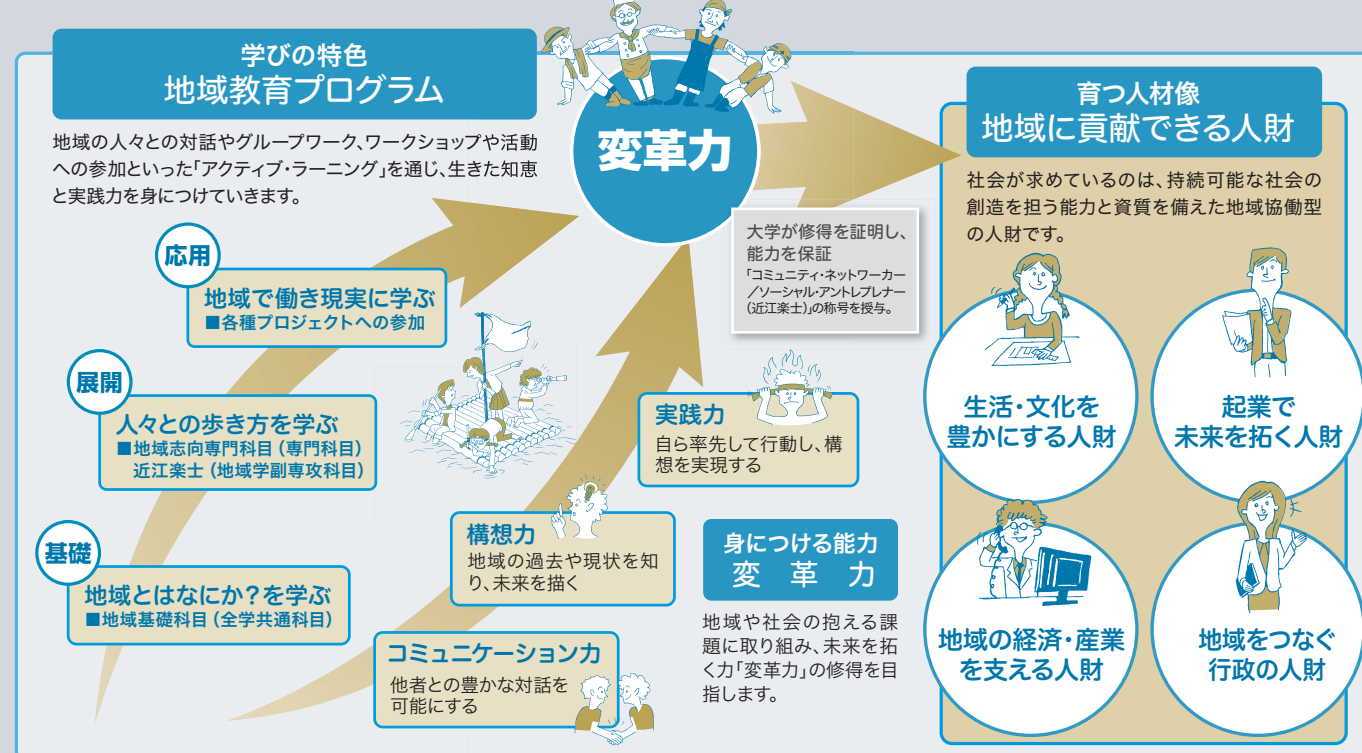


未来志向の変革力で 地域に貢献できる“人財”となる。



目まぐるしく変わり続ける時代を生き抜き、地域社会に貢献していくには、どんな能力が必要でしょうか。滋賀県立大学はひとつの回答として、地域教育プログラムを整備・体系化しました。現実の社会に起こる様々な問題に取り組み、創造的に変革する能力と態度を養うための学習です。地域の現場に飛び込んで、生きた課題と向き合い、大学での学びを活かす。実践することにより本当の「能力」になるからです。

滋賀県立大学独自の地域教育プログラムは、文部科学省による「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(2013年度)、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(2015年度)の採択という形でも評価されています。これらの事業の担い手として、関係自治体などとの連携のもと、少子高齢化や若者人口減少に起因する様々な地域課題に対し、教育、研究、社会貢献の観点から解決に取り組んでいます。



「地域共育」のプラットフォーム構築とSDGs達成に向けた取組

滋賀県立大学は開学以来のモットーである「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」を実践するため、長年に亘り、県内のさまざまな地域との関係を大切に、信頼関係を培ってきました。「大学」「学生」「地域」の3つの主体が相互に学びあい、教えあい、力を合わせることで、地域と共に育つ教育の場づくりと社会問題を解決するためのプラットフォーム構築に取り組んでいます。また、SDGs(国連の提唱する「持続可能な開発目標」)の達成に向けて、地域に根付いた以下の活動を行っています。

- **SDGs Action ①**
ー 近江楽座《持続可能な活動と経済をつくる》
- **SDGs Action ②**
ー 地域教育プログラム《地域に変革を起こす人材をつくる》
- **SDGs Action ③**
ー SDGs特化型地域課題研究《持続可能な暮らしの基盤と地域をつくる》



世界および地域の持続的な発展に貢献することを目指し、本学では2018年6月16日に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行い、本学のSDGsにかかる取組姿勢を対外的に発信しました。その後も2019年3月に国連アカデミック・インパクトおよび関西SDGsプラットフォームへの加盟を行うなど、多様な関係機関と連携・協力しながら、様々なSDGs関連事業を展開しています。



地域活性化の期待を背負う協働の取り組み

スチューデントファーム「近江楽座」

社会へ根づいていく地域活性化プロジェクトを募集し、審査を経て採択されたプランの調査、研究、活動等経費を助成する仕組みです。2004年度の文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択され、毎年約20チーム、述べ400人を超える学生がさまざまな地域で活動しています。過去15年間で300を超えるプロジェクトが成果を残してきました。限界集落保存、農業や環境生態系問題、伝統文化財保存、地場産業支援、高齢者・障がい者問題、商店街活性化、移住定住促進、エネルギー・ゴミ問題など、テーマは多岐にわたります。東日本大震災やフィリピン・レイテ島の災害では多くの学生が支援活動に赴きました。活動は授業ではなく、すべて学生自身が主体的に進めています。活動を全面的に支援することが大学の役割です。大学発地域貢献の先進的な取り組みとして内外で高く評価されています。



政所茶レン茶[®] — (伝統的茶摘み作業)



滋賀県大生き物研究会
(外来魚駆除作業)



たけともミライ
(ブックレット制作)



座・沖島(春の大祭)



BAMBOO HOUSE PROJECT(竹の庭製作作業)



とよさだ(田植え作業)

学びの特色 国際交流

世界の地域と社会で学ぶ。

琵琶湖というキャンパスで学んだ地域や社会への貢献を世界でも実践できるように、国際交流を支援しています。

本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象となる交換留学生をはじめ、様々な交流プログラムを通じてグローバルな視野の拡大をはかり、地球市民としての観点から、日本はもとより様々な国と地域の発展と進歩に貢献できる人材に育つことを願っています。

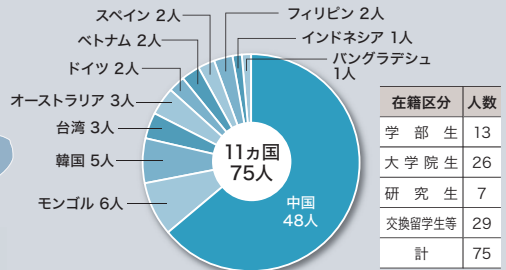


交換留学協定大学一覧

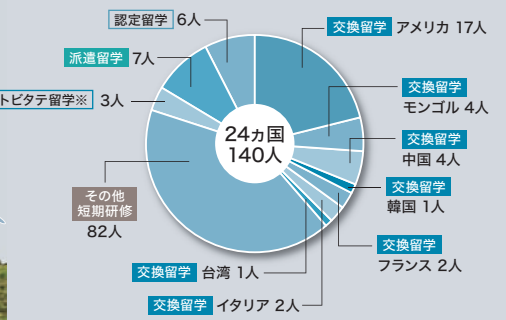
国名	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校
	オーバーン大学モンゴメリー校
	アルマカレッジ
	コロンビアカレッジ
	マウントセントメリーズ大学
	ミッドミシガンコミュニティカレッジ
	ヒューストンビクトリア大学
イギリス	ヨークセントジョン大学
イタリア	ペルージャ外国人大学
スペイン	セヴィーリヤ大学
ドイツ	アウクスブルク大学
オーストラリア	シドニー工科大学
フランス	リール政治学院
	オルレアン大学
韓国	光云大学
	江原大学
台湾	中興大学
中国	海南大学
	青海民族大学
	内モンゴル民族大学
	湖南師範大学
	湖南農業大学
	中南大学
	中興大学
モンゴル	モンゴル国立大学
フィリピン	サンカルロス大学

留学生数

海外から滋賀県大へ（2019年4月現在）



滋賀県大から海外へ（2018年度実績）



※企業寄付の奨学金により留学する官民協働プログラム

JCMU英語プログラム

JCMU (The Japan Center for Michigan Universities) とは、ミシガン州立大学連合日本センターの略称で彦根市松原町にあります。JCMUではアメリカ・ミシガン州内にある15の州立大学等に在籍する留学生を対象とした日本語・日本文化プログラムや、ネイティブ講師による英語プログラム、公開講座などを実施しています。英語集中コース、テーマ別コースなど自分のスキルに応じてコースを選ぶことが可能です。



ヨークセントジョン大学
リール政治学院
オルレアン大学
セヴィーリヤ大学
アウクスブルク大学
ヘルーシャ外国人大学

モンゴル国立大学
内モンゴル民族大学
江原大学
光云大学
滋賀県立大学
湖南師範大学
湖南農業大学
中南大学
中興大学
海南大学
サンカルロス大学

ミッドミシガン
コミュニティカレッジ
アルマカレッジ
ミシガン州立大学連合
コロンビアカレッジ
カリフォルニア州立大学
モントレーベイ校
マウントセントメリーズ大学
ヒューストンビクトリア大学
オーバーン大学モンゴメリー校

留学制度の紹介

交換留学 交換留学先は右の表（P10）の26大学です。大学同士の交流協定に基づいて、相互に学生を派遣・受入する制度です。期間は基本的に半年～1年間で、学内での選考により派遣学生が決定されます。派遣先での授業料の納付が不要で、本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

認定留学 提携大学以外（協定を結んでいない大学）で、提携大学への留学と同等以上の効果が期待できると学長が認定した大学等（認定大学）への留学をいいます。交換留学同様本学での在籍状況は「留学」扱いとなり、留学先で得た単位が本学での審議により認められることが可能ですが、出願、入学手続きは自分で行い、費用も全て自分で支払います。本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

人間学「異文化理解」 滋賀県立大学の人間学科「異文化理解」を履修し、長期休業を利用した3週間の海外研修です。アメリカでの「異文化理解A」と中国での「異文化理解B」があります。

派遣留学 国際コミュニケーション学科独自の制度で、派遣留学協定締結校へ4ヵ月から1年間留学するものです。2019年4月時点の留学先は、アメリカのランシングコミュニティカレッジ、スカジットバレーカレッジ、オリンピックカレッジ、エベレットコミュニティカレッジ、ポートランド州立大学、イギリスのリーズ大学、カナダのビクトリア大学、ニュージーランドのオークランド大学です。交換留学と異なり、留学先大学での授業料を支払う必要があります。本学からの助成金あるいは授業料減免制度の対象です。

短期海外研修 夏期や春期の長期休業期間中を利用した約1ヵ月の留学です。具体的な留学先は決まっておらず、自分で海外の大学で実施している3週間程度のプログラムを探し、留学します。

留学助成金と単位認定

留学の形態により、本学より奨学金または授業料の一部が留学助成金として支給されます。また留学先で取得した単位を本学の単位として認定でき、学部によっては卒業要件に組み込むことも可能です。履修科目によって本学の授業科目と読替えることも可能です。



カリフォルニア州立大学モントレーベイ校
California State University Monterey Bay
(アメリカ・カリフォルニア州)



湖南師範大学
Hunan Normal University
(中国・湖南省)



セヴィーリヤ大学
The University of Seville
(スペイン・アンダルシア州)



アウクスブルク大学
The University of Augsburg
(ドイツ・バイエルン州)



オルレアン大学
University of Orleans
(フランス・ロワレ県)



光云大学
Kwangwon University
(韓国・ソウル市)



モンゴル国立大学
National University of Mongolia
(モンゴル・ウランバートル)

学びの特色【応用編】 OB・OGが語る、県大仕込みの変革力

県大生
OB・OG
Interview

社会に出て通用する変革力とは？ 人財とは？

社会福祉法人
滋賀県済生会
救急外来

2012年度 人間看護学部人間看護学科卒業

末松 泰到 さん

略歴：
2013年、卒業とともに社会福祉法人済生会滋賀県病院へ。急性期病棟の配属となり、交通外傷やICU（集中治療室）を出たばかりの重篤な患者の看護を経験。4年目にICU・救急外来へ異動。2018年から同院保有のドクターカーにも搭乗し、医師とともに医療機関搬送前の現場などへ直接出動。7年目となる2019年4月にはICU・救急外来がそれぞれ独立した部署となり、救急外来に配属される。

救急医療の最先端に臨みながら 思いやりを持って患者に寄りそえる看護師に

看護師を目指すきっかけは中学時代の社会学習

中学時代、社会人から「仕事」についての話を聞き取り、レポートにまとめる授業がありました。近くに住んでいた看護師さんを訪ね、話を伺ったところ、印象に残ったのが「最も近い立場」で患者さんと向き合うという言葉です。これをきっかけに医療への興味がわき、いつしか看護師を志望するようになりました。滋賀県大を選んだのは、総合大学の中にある開かれた看護学部というイメージに魅力を感じたからです。実際に、オープンキャンパスで見かけた先輩たちはみんな楽しそうで、友だちの輪も大きく広がると期待を待てました。

みんなで支え合う学び、だから続く、身につく

入学して感じたのは、想像以上に勉強が忙しいことでした。授業は高校並みに詰まっており、課題も多く、夏休みの半分は実習で過ごしました。しかし、上回生になり講義や実習の専門性が高まるにつれ、何一つ

無駄がなかったことを認識するとともに、看護師に求められる職責の重さや、知見の深さを痛感するようになりました。それだけに、日々の学びを血や肉に変えるには大きな努力が必要でした。実習は緊張を伴い、提出資料が多く睡眠を取りにくい状況にストレスも感じていました。それを支えてくれたのが学科の仲間であり、手厚く指導してくださった先生方です。

意識の高い仲間と先生の手厚い指導が 滋賀県大での生活の財産

医療を通じて人の役に立ちたいという大きな目標を共有していたことから、支え合いの気持ちが強くなり、難しい試験が行われる際は、仲間たちと夜遅くまでパソコン室（通称）にこもり、わかりにくいところを教え合いながら勉強を進めました。それぞれが早い時点で進路を明確に固めていたことも私にとっては大きな刺激となりました。自然に、自分の将来と深く向き合うようになったことを覚えています。

基礎学ゼミの米田先生には特にお世話になりました。自分の経験をもとにテーマ設定した「学生のストレス」についての研究はなかなか進みませんでしたが、先生はつねに私のペースに合わせて一対一で指導や監修を続けてくれました。その関係性こそ、看護学の基本だと改めて感じています。

進路は自ずと見えてくる

滋賀県大の人間看護学部では、精神学や老人看護、急性期、慢性期、小児、母性など

あらゆる領域の看護を学ぶことができ、大学と提携した地域の病院や保健所など数々の施設で実践することが可能です。自分の看護師としての適性や可能性を探るうえでも貴重な経験だったと思い返しています。話を聞くのが得意なことから慢性期医療への適性を感じたこともありますが、心を読み取ることも簡単ではありません。一方、急性期では時間との戦いを強いられます。どちらにも不安はありましたが、より強い興味を持って急性期に進路を定めました。ちょうど、現在の職場である病院がドクターヘリの導入を検討していることで話題になっており、プレホスピタル（病院前救護）医療に関心があったことから、後々はそこにも携わりたいと考えて就職を志望しました。

当たり前のことを全うできる 思いやりを持った看護師に

今の職場に就いて7年目、現在は救急搬送される患者さんを迎える救急外来で働いています。胸痛や心肺停止といった重症者患者の通報に従い、医師とともにドクターカーで出動する場面も少なくありません。もう少し経験を積み、もう少し経験を積み、ドクターヘリの一員として県境の過疎地域などへ出動することもできるようになります。「待った！」「待った！」の効かない場面が多いことも確かですが、一人ひとりのプライバシーを保全するなど、当たり前のことが守られるような、思いやりを持った対応を心がけたいと考えています。そのためには広い視野を持つことが大切です。総合大学である滋賀県大なら、他学科の学生たちの交流を通じて、違う分野の仕事や伴う苦労、生き方について学ぶことができます。それは看護の基礎となる、患者さんとの信頼関係づくりにも還元できるはず。ぜひ滋賀県大の人間看護学部で、皆さんの進みたい道や可能性を見つけてください。



済生会滋賀県病院所属のドクターカーとともに

興味があることを大学で学びながら、大学の外に教材を見つけて実践する、そこで得た知識を研究にフィードバックし、さらに学ぶ。大学と地域の壁を越えて自らを磨き、変革力を身に付けていくことが本学の学びの真価です。色んな分野で活躍する先輩に、いまの仕事と県大生活の関係について語ってもらいました。

株式会社リコー リコーテクノロジーセンター

2011年度 工学部電子システム工学科卒業
2013年度 工学研究科電子システム工学専攻修了

竹村 和将 さん

略歴：
2014年、株式会社リコーに入社。リコーテクノロジーセンター内のプラットフォーム事業本部に配属。現在は、各事業の製品やサービスを連携したソリューションの開発に携わるエンベデッド開発センターに所属し、第二開発室開発グループの一員として、ワークスタイルに変革をもたらすTomboloの開発に携わっている。

よりフレキシブルなネットワーク活用を 具体化させるTomboloの進展を目指して

ワークスタイルの変革に対応できる ネットワークを構築

現在は、Tombolo（トンボロ）というネットワークシステムの開発に携わっています。Tomboloとは地形用語で、フランスのモン・サン＝ミッシェルのように海によって隔てられている陸と島が、干潮になると砂州でつながる現象を示します。ネットワークにおいても「必要なときはつながり、不要なときは隔てられている」といった仕組みができれば、コミュニケーションはより快適になるはずです。たとえば、「学校でオープンなワークショップが行われる場合、学生はWi-Fiなど校内ネットワークを利用してより詳しく受講できるが、外来の聴講者はネットワークを利用できないため不便を感じている」、こうした課題をなんとか解決できないものか、Tomboloはそんな困りことから生まれました。

ニーズや課題を見つけることが仕事

私の部署のミッションは、現場の課題解決に貢献する新規サービスの構想・開発です。開発業務だけでなく、自ら開発したサービスを価値検証するためのリサーチ活動にも取り組んでいます。リサーチ活動の一環として、医療情報学会をはじめ教育関連の展示イベントなど、年に3～7件の出展を実施。顧客それぞれの情報環境やワークスタイルに合わせ、より効果的に課題解決に貢献するサービスを考え提案しています。

会社にごもって研究や開発に取り組むだけではなく、顧客と直接触れ合って貴重なフィードバックを得られることがこの部署の魅力。顧客の業務やワークスタイルは多様で、技術も日々進歩しているため、自己研鑽は欠かせませんが、それに伴って自分自身の伸びし

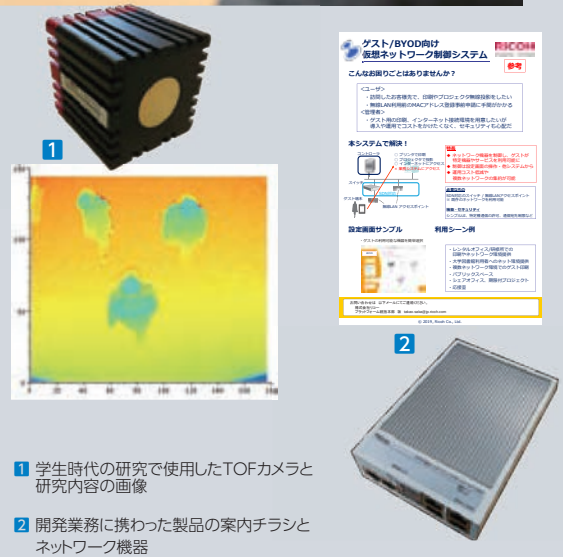
る可能性も広がると考えています。

滋賀県大で身につけた、 深い専門性と広範な知見

この学科を選んだのは、中学生のころからレンタルサーバーを借りてホームページを立ち上げ、趣味の世界でチャットを楽しむなど、もともと情報系に興味があったからです。大学に入れば専門を掘り下げることができる、しかも滋賀県大にとって新設学科の一期生となるため、なんでも自由にチャレンジできるという期待がありました。入学して感じたことは、学びの分野の広さです。専門とは直接関係のない人間学という授業をはじめ、環境学や語学、数学、化学、物理学など、忙しく勉強したことを覚えていて。滋賀県大の人材育成が「T型志向」つまり「なにかひとつの専門分野に精通して深い知識を持ちつつ、他の分野にも幅広い知見で対応し、グローバルに思考できる人材」だと気づいたのは社会人になってからかもしれません。実際に、専門知識だけで仕事が進むわけではなく、クリアすべき課題が複雑であればあるほど、幅広い知見をもとにしたアプローチが求められます。

仕事に役立つ県大力は 「疑問を持つこと・問題解決・伝える力」

講義や実習、研究の過程で身についたのは、まず「疑問を持つ」という姿勢です。与えられたものをそのまま受け入れるのではなく、なぜそうになっているのか？と考えることで、そのロジックや背景の理解が深まります。研究活動では、自ら課題を設定し、障害にぶつかるたびに、原因を切り分けて問題を解析し、

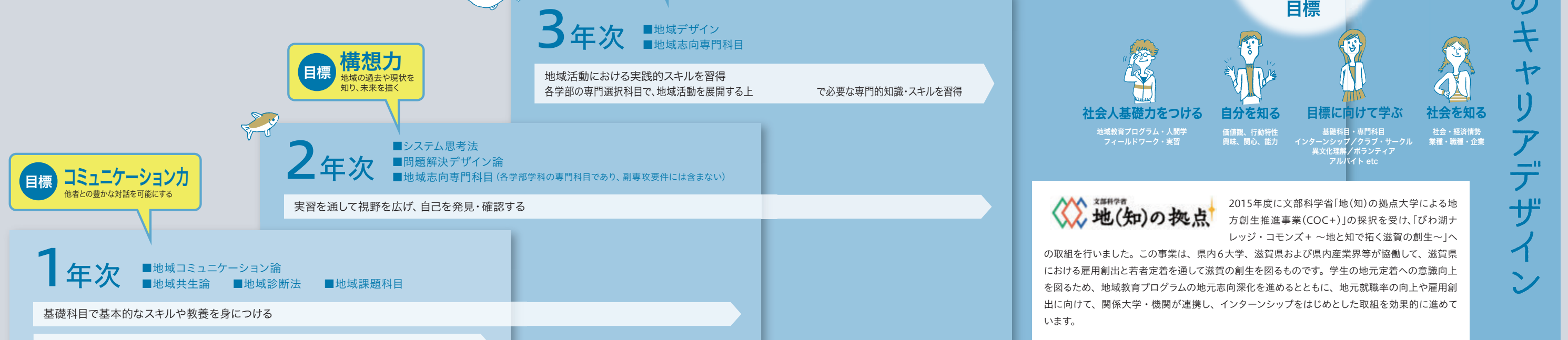


アプローチの適正についての判断をくりかえしました。この経験は仕事上の「問題解決」に活かされています。もう一つが「伝える力」です。研究室には2人の先生と異なるテーマを持った学生が数人いて、週に1、2度、進捗を伝え合う機会がありました。何に困っているかを正確に伝えないと効果的なアシストは得られず、質問に答えることで見落としに気づくこともたくさんありました。これらすべてが現在の仕事の支えとなっています。広く学ぶからこそ関心を持てるものを見つけることができ、先生の手厚いアシストによって研究は深まり、専門的な能力が高まります。能動的に学業を望む人にとって最適な環境です。滋賀県大でとことん勉強してください。

学びの特色 キャリア育成プログラム

人生の目標をじっくり見つけてください。

いまはまだ将来の夢を描けていないとしても、大学生活を通して多彩な経験を積んでいけば、理想とする自分が見えてくるはずです。与えられた時間は同じでも、学生生活の密度は過ごし方によって濃くも薄くもなります。滋賀県立大学での4年間、あるいは大学院を通じて何が学べるのか、まず確かめ、そして目標をつくり、実現に向かって行動してください。ますます複雑化していくこれからの社会において、キャリアの設計・形成は、さまざまな学問領域にまたがる課題ですが、地域社会で活躍できる知と実践力の修得を、本学独自のキャリア育成プログラムでしっかりサポートします。



主なキャリアサポート

	1年次・2年次	3年次 (院1回生)	4年次 (院2回生)
就職スケジュール			■就職ナビ情報提供開始 (3月) ■合同企業説明会・個別企業説明会への参加 (3月) ■エントリーシート作成・提出 (3月) ■SPI等テスト受検 (テストセンター、WEB) (3月)
キャリア教育	■考えるための道具 (2単位) (4月～8月) ■キャリアデザイン (2単位) (4月～8月) ■地域産業・企業から学ぶ社長講義 (2単位) (10月～3月) ■キャリアデザイン特講 (2単位) (10月～3月)	■インターンシップガイダンス (4月) ■インターンシップ事前研修 I・II (7月)	■インターンシップ (就業体験) (8月～9月) ■インターンシップ報告会 (10月)
就職セミナー	■就活準備スタートセミナー (5月) ■自由応募型インターンシップセミナー (5月) ■自己分析講座 (6月) ■筆記試験対策 (6月) ■業界研究セミナー (基礎編) (7月)	■就職活動本番準備セミナー (10月) ■業界研究セミナー (応用編) (10月) ■ES対策セミナーと模擬テスト (11月) ■全国一斉WEB模擬試験 (11月) ■冬のインターンシップの選び方 (11月)	■ビジネスマナー講座 (12月) ■面接対策とGD対策 (12月) ■学内業界研究会事前説明会 (12月) ■学内業界研究会 (1月)
学生支援室	■公務員試験対策講座ガイダンス (4月) ■公務員試験対策講座 (5月～3月)	■就職・進路相談 (随時) ■模擬面接 (随時)	■直前対策セミナー (2月) ■学内企業研究会 (3月)



企業研究会 (3月)

全学共通科目 (人間学)

各学部学科での基礎科目・専門科目 フィールドワーク・実習

副専攻科目 地域課題の解決につながる研究などを通じて、地域の将来を担う変革力を持った人材の育成を目指します。

近江楽士(地域学) 副専攻

所定の単位を修得した修了生には、「近江楽士(コミュニティ・ネットワーク・CN)」または「近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー・SE)」の称号を授与

近江環人 大学院・社会人対象

近江楽座